

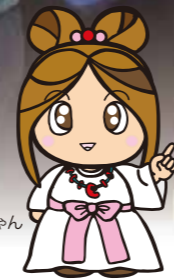
# 大橋川改修をわかりやすく解説します

## 大橋川コミュニティセンター

平成30年10月28日  
雲南市・奥出雲町親子のみなさま



視察・勉強会は随時  
受け付けています!



大橋川コミュニティセンターでは、  
松江市の水害や大橋川改修に関する内容など、  
勉強会の開催を受け付けています。  
お気軽にお申し込みください!



平成30年12月15日  
尾原ダム・ダム湖の郷のみなさま



平成30年5月18日  
都市環境デザイン会議 (JUDI)のみなさま



平成30年10月5日  
島根県立三刀屋高校のみなさま



平成30年9月14日  
松江市立第三中学校のみなさま



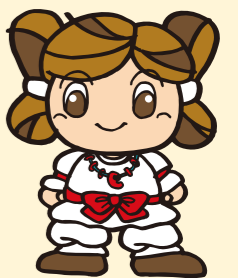
平成30年11月8日  
小倉北区自治総連合会のみなさま



# 大橋川通信

大橋川改修情報紙

古代の  
生活の様子が  
明らか  
になりました。



みこくん

## サメの歯が大量に出土 —朝酌矢田地区・シコノ谷遺跡—

朝酌矢田地区周辺は、『出雲国風土記』の中で「朝酌あさくみの促戸せと」と記載され、出雲地方の行政の中心であった出雲国庁から隠岐などへ通じる交通の要所地であり、大橋川を渡るため古くから公の渡し場があったとされ、古代の道路など数多くの歴史的文化財が確認されています。

大橋川改修に伴う当地区の試掘調査で3箇所(シコノ谷遺跡、若宮谷遺跡、朝酌矢田Ⅱ遺跡)の遺跡が発見されており、昨年6月から発掘調査したシコノ谷遺跡では、サメの歯(156本)が出土し、全国的にみてもこれだけ多くの数が発見されるのは珍しいことです。そのほか土器や矢じり(黒曜石)、イノシシの牙、シカの骨、クルミの殻などが見つかったことで、海と山両方で食料を

獲得していた当時の様子がうかがえます。

出土品のうち、縄文土器はいずれも土石流により谷奥から押し出されたもので、縄文時代早期(約8000年前)から縄文時代晩期(約2600年前)の長期にわたるものと確認されました。さらに上の層からは弥生時代、古墳時代、『出雲国風土記』が書かれた奈良時代などの土器も出土し、この場所で長い間人々が生活していた様子がわかりました。

引き続きこれまで試掘調査で確認された遺跡について調査していく予定です。



大量に出土したサメの歯



矢じり



獣骨と魚骨



弥生式土器

## 大橋川コミュニティセンター

[休館日] 土日祝祭日・年末年始 [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] なし  
〒690-0887 松江市殿町383番地 山陰中央ビル1階  
TEL (0852) 28-3621 FAX (0852) 28-3623

E-mail : [izumo@cgr.mlit.go.jp](mailto:izumo@cgr.mlit.go.jp)

ウェブサイト : <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/comisen/>

大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が共同して管理・運営をしています。



## 斐伊川放水路と尾原ダムの運用により治水効果を発揮しました

中国地方に大きな被害をもたらした平成30年7月豪雨と同9月の台風24号にともなう洪水では斐伊川放水路と尾原ダムの運用により治水効果を発揮しました。

このうち、台風24号にともなう洪水では、斐伊川の上島観測所(出雲市上島町)で観測された流量が最大約1700m<sup>3</sup>/sに達し、斐伊川放水路へ過去最大となる約670m<sup>3</sup>/sを分流しました。

また、斐伊川上流部の尾原ダム(雲南市)では、ダムの流入量が最大約610m<sup>3</sup>/sに達し、このうち約260m<sup>3</sup>/sをダムに貯留する防災操作を行いました。

この斐伊川放水路と尾原ダムの運用により、整備前と比べて斐伊川下流部の出雲市灘分町の水位を116cm下げることができ、避難勧告等の発令の目安となる氾濫危険水位を超える水位上昇を防ぐ効果があったと推定されます。

なお、神戸川では志津見ダム(飯南町)や斐伊川放水路の整備にともなう河川改修が完了しており、分流されてきた水と合わせ日本海へ流下させましたが、安全上問題はありませんでした。

このように尾原ダムや斐伊川放水路の運用で、一定程度は治水安全度が高まりますが、宍道湖の水位上昇が原因となって浸水被害が発生する松江市などでは、戦後最大の浸水被害が発生した昭和47年7月豪雨(47水害)と同程度の洪水が発生した場合は、家屋の浸水被害を防ぐことが出来ません。

このため、大橋川の上下流の川幅が狭い部分を拡幅したり、堤防がない場所に堤防を整備したりする対策が必要です。

今後も市民の皆さんの意見をうかがいながら大橋川改修の早期完成を目指して着実に事業を進めてまいります。

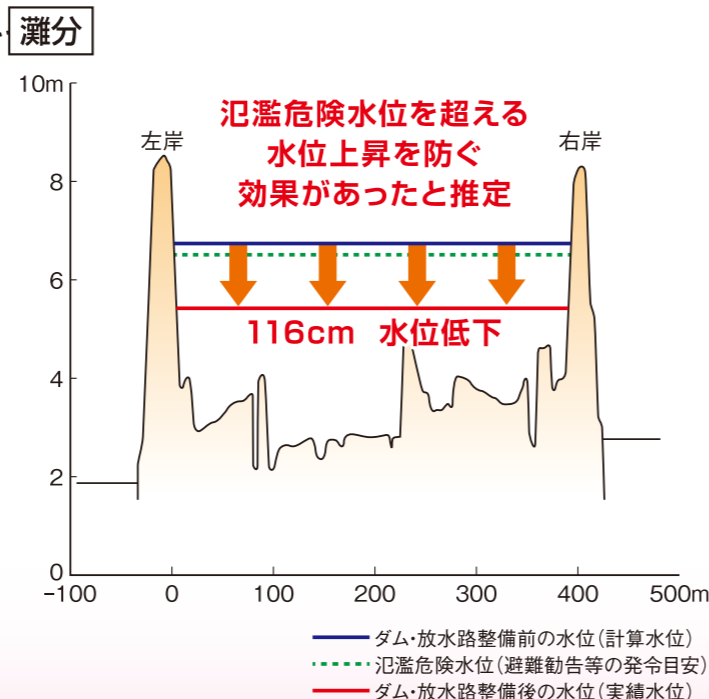


台風24号洪水にともなう斐伊川放水路の運用



台風24号洪水にともなう尾原ダムの運用

### 斐伊川放水路・尾原ダム水位低減効果 —台風24号洪水時—



## 朝酌矢田地区においてにぎわいづくりイベントが開催されました

大橋川改修に伴う家屋移転が進む朝酌矢田地区において、地区のにぎわいづくりにつなげようと、住民の皆さんが実行委員会を組織して地区の魅力を発信するイベントを開催しました。

平成30年8月は「ぼくらの秘密の島探検」と銘打って、小学生の親子連れ約100人が大橋川の狐森島を舞台に魚釣りや木陰でのハンモック、昔ながらの漁の体験など、夏のひとときを過ごしました。

幅広い年代を対象とした同年11月に開催した「やだのまつり」には平成31年5月に開催されるホーランエンヤに関する展示や、地元グルメが味わえるマルシェ、矢田渡船周遊体験、釣り大会、歴史探訪ツアーなどが催され、約400名の来場者でにぎわいました。祭りにあわせて実施した大橋川改修の事業説明パネル展示や埋蔵文化財現地説明会にも多くの見学者がありました。

朝酌矢田地区は、ホーランエンヤでは二番船を担うなど歴史と伝統のある地区ですが、近年では人口減少によって地域の行く末を心配する住民は少なくありません。

今回のイベントは住民の皆さんが地域の良さを再認識するとともに地区外との交流人口の拡大に向けたきっかけとなり、今後の新たなまちづくりにつながることを期待されます。



ハンモックでくつろぐ「ぼくらの秘密の島探検」の参加者



「やだのまつり」で買い物を楽しむ来場者



「やだのまつり」で来場者にぜんざいをふるまう住民の皆さん



大橋川改修に関する展示をみる来場者

## 新大橋のデザインが決定しました!

松江市街地中心部を流れる大橋川に架かる「新大橋」は、市街地の南北を結ぶ重要な橋ですが、架橋から80年以上が経ち、大きな地震への対応と歩きやすい歩道整備などのため、大橋川改修にあわせて島根県が事業主体となり平成28年度から架け替え事業に着手しています。

松江の水辺景観と調和し、長く市民に愛される橋となるよう計画づくりを進め、景観上の専門的な助言を頂くために平成28年12月に「新大橋景観検討委員会」を設置しました。

委員会での議論と市民の皆さんからの意見を踏まえて、平成30年9月に新大橋のデザインが決定し、「水都・松江の風情を彩る現代的で綺麗な姿と、渡りやすく佇みたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰め空間」を実現することとなりました。

今後も、新しい新大橋が市民一人ひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力を高める橋となるよう整備を進めます。

### ①橋の近景

～「綺麗な橋」とするための  
繊細な仕上げ～  
～大橋川の風景を引き立てる～  
・歩道の支持部材と高欄の形で繊細な印象をつくる  
・橋脚表面の仕上げで柔らかな表情をつくる



橋のデザイン

### ②橋の色彩

～大橋川の風景に馴染む～  
・高欄は明るいグレー系  
・桁と支持部材は青系

### ③歩行空間

～歩きやすく、佇みたくなる、  
居心地の良い空間～  
・自然石骨材の風合いを活かした歩道舗装  
・手触りがよい鑄鉄製トップレール  
～渡ってみたいくなる工夫～  
・島根の伝統技術(石州瓦の製法)を活かしたタイル



橋上空間のデザイン

### ④市民参加

～長く愛される橋とする～  
・橋の色決めなど、市民参加に今後取り組み

新大橋架け替え事業に関する問い合わせは  
**島根県都市計画課**  
電話0852-22-5399